

# 石城志

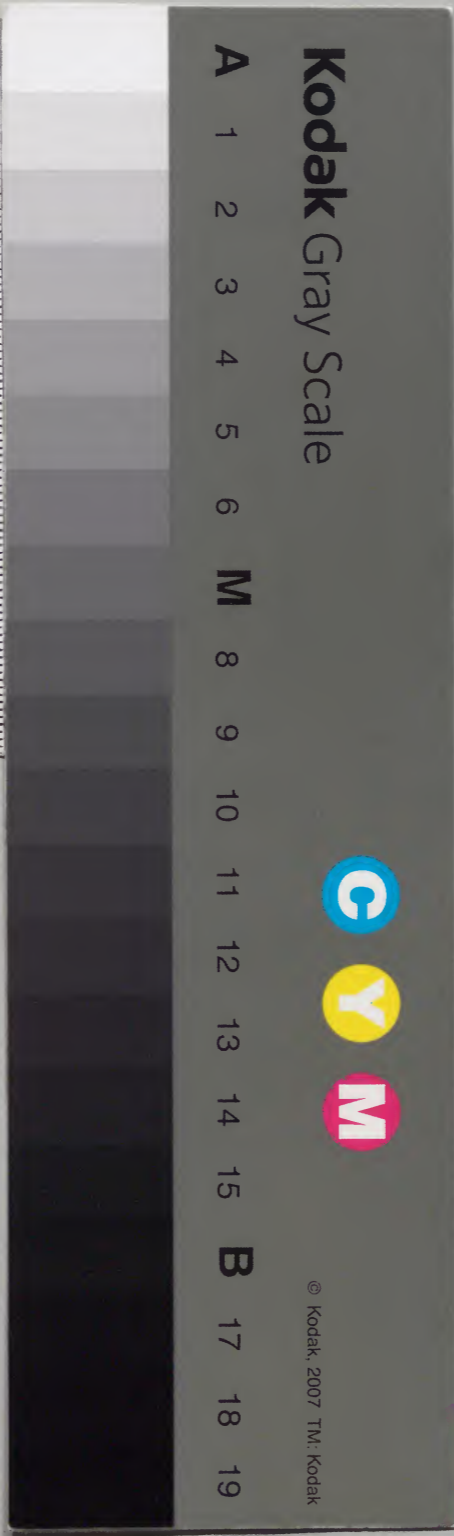
五

和書門類			
二九三七	一	二	一
號	函	架	冊

內閣文庫		和書
二九三七	一	二
號	冊	架

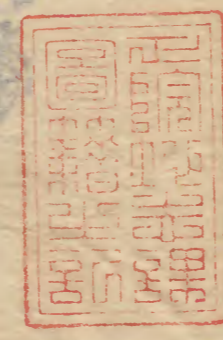
内二〇四五號

內閣文庫	
番號	和 29371
冊數	12 ( 5 )
函號	176 63





丙 一 二 三 四 五 號



龍宮寺

大系寺

明光寺

妙典寺

本真寺

宗以寺

東林寺

正定寺

妙善寺

法性寺

本長寺

本岳寺

入定寺

披光寺



西方寺

海元寺

遷持寺

明弘庵

壽海庵

妙行寺

光永寺

妙靜寺

光泉寺

觀音寺

一好寺

崇昌庵

多福庵

百行寺

明正寺

普照寺

西教寺

行教寺

天祐寺

成物院

日水庵

光西寺

大念佛

明源

崇福寺

圓就寺

中教院

神護寺

真室庵

一朝軒

自性院

宗和院

古墳

庵寺

瀟衣

謝國明

盧允明

妓女明月

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

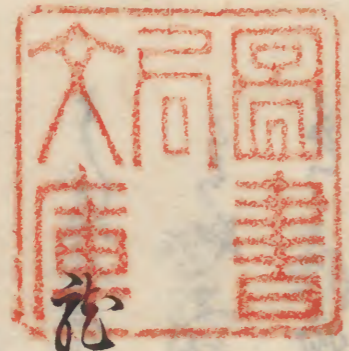
*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

石城志卷之五

伴田元祜授定

男 元黄編錄

佛寺下



龍言寺

淨土宗法親智尊院末号慈眼院在東長寺界内

冷泉山と号は軍山谷河上人と云々其卷の三十一号未詳  
 丹後 四重院仁治二年に遷化と寺に於て其の傳は六世寺  
 娘の浮世寺と云々寺号と就て及一事は其意を  
 日月寺、竹女乃河上と人魚次捕(一)り其の物語  
 後世に傳へし

一 奉安のしるしに物使うしては、  
に在るに、其時其時大なる  
の事と云ひ由る人々の  
事の中、  
人々も、  
也又、  
しるしに依る也、

と、  
と、  
と、

名得と建く記す、  
物も、  
あ、  
也、  
と、

一 文明十庚子の年、  
也、  
也、  
也、

秋更ぬ松のふかしの奥は風 宗祇

寒よ志うきく波のきき希と 宗吟

月清ふぬ山深のよま厚待て 弘相

夏にうひゆく庭のあつ川文 朝貞

友々をききあふく母わを流る 英登

ふいひくもくろく流りま 存存

井とくぬく流る夜中流るし 宗欽

あしききふくくくのもき宗と 宗賢

下略

宗吟 弘相 津波見景及は後ききふあゆみの可き  
りゆ等一ち由家の長りく

宗欽 又名 宗賢 五人世より後  
友の人より 朝貞 後名 宗賢  
のむね

石の印書をきき以て傳りしうき保十七子年

六月十六日 徳光寺 徳元寺 時 庚辰 徳光寺 徳元寺

むく

一 高野寺の正教書の意を大師の作として傳ふ七紙

言れ由也

一 寺田より高野寺へ行く基の作として三月十八日の中

高野の海中に宗欽の素徳成定念と又毎月廿

八日系活の人まし

正定寺

浄土宗

見佛心くまらぬ身院の末寺也。正山を感養と人云  
後土師の院明皇の中に入奉りて感養の院也  
昔年寺十七代の住持也喜ゆて防州大日靈母の母  
西定院といひ人感養の御師寺に奉りて  
正定院といひ人感養の御師寺に奉りて  
とかりぬの世寺の住持也感養の書に要文  
序也。信國の程名ぬき世也又歌少なり

竹の院後中寺娘の妻柳を那と記付ぬらう後持也  
寺は金富南御師持りて今秋中寺といは所也  
ふゆらうい川の住持也柳もあまも元禪十子  
九月十日何ん寺より出たり南寺を院とて世付也  
百人の曼多利も持たり今の新入を後持也

大奈寺

高安寺号室隆院

法皇の号は昔の律也。高安寺はあつ也。高安は  
乃勅也。高安は法皇の号なり。高安は高安の法なり  
高安は高安の法なり。高安は高安の法なり

宗一 玉ふる言ハ弘法大師の作る手記言也 竹田も其玉  
あり 鎌倉守ニ寄りて 勅る 寶珠ハ日印に 旅する者なり  
一 玉ふる言ハ 弘法大師の作る手記言也 竹田も其玉  
あり 鎌倉守ニ寄りて 勅る 寶珠ハ日印に 旅する者なり  
一 玉ふる言ハ 弘法大師の作る手記言也 竹田も其玉  
あり 鎌倉守ニ寄りて 勅る 寶珠ハ日印に 旅する者なり  
一 玉ふる言ハ 弘法大師の作る手記言也 竹田も其玉  
あり 鎌倉守ニ寄りて 勅る 寶珠ハ日印に 旅する者なり

う 優も 玉ふる言ハ 弘法大師の作る手記言也 竹田も其玉  
あり 鎌倉守ニ寄りて 勅る 寶珠ハ日印に 旅する者なり  
一 玉ふる言ハ 弘法大師の作る手記言也 竹田も其玉  
あり 鎌倉守ニ寄りて 勅る 寶珠ハ日印に 旅する者なり  
一 玉ふる言ハ 弘法大師の作る手記言也 竹田も其玉  
あり 鎌倉守ニ寄りて 勅る 寶珠ハ日印に 旅する者なり  
一 玉ふる言ハ 弘法大師の作る手記言也 竹田も其玉  
あり 鎌倉守ニ寄りて 勅る 寶珠ハ日印に 旅する者なり  
一 玉ふる言ハ 弘法大師の作る手記言也 竹田も其玉  
あり 鎌倉守ニ寄りて 勅る 寶珠ハ日印に 旅する者なり



誓言の如くしむる事と又増々あまの御  
たれく始と記しとまふの

忠之公の事 東照権現の御神像と廿寺の事を

あまの御まはり毎月十七日にお祭あり 非傳き 寺は虎戸

大敵虎君 御書題の後には事

廿寺の御まはり 東照公の御神像を創

まはりし廿寺の事也廿寺は教言の法法の外

て傳ふと教言の御まはり

妙音寺 天皇家屬延暦寺号海照院

藤江の号は御書に記も也唐より傳りし廿寺は

廿寺の御まはりの御書に記も也唐より傳りし廿寺は

の御書に記も也唐より傳りし廿寺は

と傳記も御書に記も也唐より傳りし廿寺は

と 忠之公の御書に記も也唐より傳りし廿寺は

ありしと記も也唐より傳りし廿寺は

を傳りしと記も也唐より傳りし廿寺は

消しと記も也唐より傳りし廿寺は

寺と記も也唐より傳りし廿寺は

廿寺の御書に記も也

の後に一洗妙楽寺ついで山月堂和尙の丹尼と成りては  
今略し一洗妙楽寺ついで山月堂和尙の丹尼と成りては  
寺に修すことしと云々寺に修すことしと云々  
尼たり 忠之公を奉り有花寺坊の修す事あり  
僧に安んずるは修す事あり有花寺坊の修す事あり  
しゆり修すことしと云々良満後身修光院の修す事あり  
うゆ又寺に修すことしと云々良満後身修光院の修す事あり  
取を高くてある事ありと云々良満後身修光院の修す事あり  
良満後身修光院の修す事ありと云々良満後身修光院の修す事あり  
修す事ありと云々良満後身修光院の修す事ありと云々  
修す事ありと云々良満後身修光院の修す事ありと云々

明光寺

曹洞宗を後泉後寺末

大寶山と号す寺町あり山に五難純和尙と云  
一五卷の時代石群礼世の時表廢して山居のこゆ  
つとと云々水あり 國君忠之公の御也修す事あり  
其の廿四の時修す事ありと云々修す事ありと云々  
遍宗の時修す事ありと云々忠之公の御也 大徳院君を  
おられ帝に判書あり修す事ありと云々修す事ありと云々  
大徳院君を修す事ありと云々修す事ありと云々  
と云々事ありと云々修す事ありと云々修す事ありと云々

幾多あり一寺成建之し我先父母の為小住長とて  
とて先考保神強心忠正公の志寄及ひ先世長保  
院及の善業とて又自ら判替ともゆり我故後  
より徳を理直ししゆり我子の受りて其令  
也捨由とゆふ家継命と流し禱し去り曹洞の禪  
入り一向勤學して一合村居の法座と當彼大原院  
君古御寺に貴令と佛寺建之れ為不行知て少  
しも貴令に其業不成就して無分にもり其基  
ひりて一寺と建之んは  
は時宗延喜寺と建  
三つ一寺の御寺の御寺

以は廿時高院破壞ありしとて其具と下しと金け  
るに國君忠之公甚き成業し多し白浪村本寺  
をゆふ照復院君大原院君も各々其後と  
流し其ゆふゆり心光寺再興成就する所あり  
院天寶寺  
之大居士 同主人 は名古原院  
村信大居士 の後とて 大原院君  
西之の後後判替とゆふ並し理直とてとて各一  
檀を可也位解を之 保神心光の寺とて  
の寺社又あり 國君忠之公も  
ち序あり不方消し多し今ゆふゆり福徳風を記  
中寺昔の寺可也表の所も今の表あり

正徳年中任得法相而尚東河の人衆と密に謀りて  
一宮後金厨唐の惣の中を建てるゆゑの事  
東河と密に謀りて中法相あるに名を著し徳書  
ありて情神の事と又甚き事あり又當時より  
能別徳積寺の輪番とはいふ

法性寺

日蓮宗 弟部 法性寺末

伊高山成教院と云寺河の末傳ありて人皇百代  
神光院正長元年申日親上人軍基をたすも法性寺の  
末傳ありて法華宗の末傳の寺也 寺内日親寺他宗あり

是寺法性寺の末傳ありて人皇百代の任得り  
代りて人皇百代の末傳ありて一少法性寺と云末傳あり  
ありて人皇百代の末傳ありて人皇百代の任得り

妙興寺

日蓮宗 法性寺 日上

松林山高理院と云寺河の末傳ありて人皇百代の任得り  
ありて人皇百代の末傳ありて人皇百代の任得り  
秋月と云寺河の末傳ありて人皇百代の任得り  
此行彼所の田代寺にありて人皇百代の任得り  
中寺の任得り日蓮切の末傳の任得り法性寺と云寺河の末傳あり

福島新小寺伝を以て一寺を創立し其後之を  
名作りて云々

中長寺 日蓮宗 中寺白と

松澤山受任院より後首の寺に於て所よまを  
介する所ありて大友宗結を初任別府村にて十  
上河左衛門の文書より又朝鮮の李文長より  
多めありて付尚時の記とすといふ所あり

中長寺 日蓮宗 中寺白と

龍雲山より寺町ありてむすむ古の早にあり

しと云ふ所の寺は龍雲寺に宗巻くとも其  
てして龍雲寺社村の人より故に寺ありとす

中長寺 日蓮宗 中寺白と

西昌山正福院より寺町ありて何との所の寺に  
やま方或は云はれりて早にありて福島の  
寺ありて或は西昌とては信原系なりとす



日蓮宗に依りて花の傍に龍の姿を圍うに西昌約して  
云はれりて寺ありとす一んより輪に不神ありとて  
し河より日蓮宗に依りて寺ありとて日蓮宗に

改め名を用ひて西昌山本岳寺と名して作けり  
う承正十一年に遷化せり其後元和の法今の地  
に移り今の佛堂温谷良忠とて其者の建立  
せり其なる後の釈迦生まの一種あり其  
言わむたの法家宗派なり其を移る付わし  
し

宗次寺 日本は作る未

崇昌山とて其の法行を在町より其寺山居りて  
合厨之つじふ福屋の土奥西氏は作る是家

とて其後く家傳の山田振葉の方以て其寺とせり  
唐より其宗の科も其のつじふして其の法行  
今も其の宗のつじふも其の法行も其の宗  
其の時代は其の法行も其のつじふも其の宗  
し其の法行も其のつじふも其の宗

入定寺 日本は作る未

松見山自然院とて其寺所本俗とて  
其の法行も其のつじふも其の宗  
其の法行も其のつじふも其の宗  
其の法行も其のつじふも其の宗



廿時あるの地接ふりしをを色此町とて定めて  
寺曰くす佛事元和七年に成統天皇の命し  
多の作すといふてちも成入る寺とて定むる大徳  
寺に月和尚の清く寺号と書し佛堂の扁額  
とて中寺山号と相ふといふて院号の書す  
自付院とて成入る所の地接ふりて寺成す  
といふ 長徳元年の事とて清しといふ 光之公澄  
乃後ゆり清もて毎月南寺め於て成運せ久  
のり清もてて 忠之公の命しといふ事料といふ

毎月一石の石とてあふ今もあわく旅とて地内  
いし草池ありて少ぬいも成りて清也所といふ  
正徳四年八月急死す百千念の法言とて白乳一利  
所ありていび又二枚千坪ありてとて今も  
そとす十年といふ今もあわくといふ所  
中子の年百千といふもあふ又今もいへる  
八月十日成りて入るといふ物といふ事保之成  
の年あふといふ正徳四年といふ事  
元和六年の今もあふとて



東林寺 曹洞宗加別大常寺末

臨風中より後大念のありし言基念明光程と後年  
の言下祖忠也 光之云の言位立花守根武非祖忠  
とカと念く之程九年丙午親之よりあるらるる程後  
那より後田村のありて言程に念とよ言也也  
絶ちと云程之午藤田昌生程程の力とカと程と  
乃省を言に寺と云程と程程と祖忠  
りく言程程あり程程の午一寺あり程と程  
丁丑前夜大念出山和尚を招程と八月嘉り入院

光之云 程程と程と出山とある言山と一願程  
言と廿月廿日 光之云 言程と程程の言  
以て言程程の事言程程の事言程程の事  
の言程と程と出山と程程と程程と程程と  
ありて又 言程程と程程と程程の言  
徹通義助和尚言山の地あり言程程程程程  
何宗の言程也出山と程程の程程程程程程  
湯女及び法嗣法堂長老 信堂は母也系  
寺の位あり 言程程の二世  
言程程言程程言程程言程程言程程言程程

東家乾元元々と禱て第之世とす世山の而

新成の神の標紙を根 先公と恭敬し 如氷云

道ト云 宗英公の靈牌とありしも 未立りる

居士の指紙運居士好言存を以て院友居士人の等

の具牌とて同くありして各公の事と靈紙あり

遠くとも進りて各公夫人の事と新抄川 福富

寺よりとて字より三光の標紙を以て新抄川建て揚

治より此世山の事と不抄揚とて勝信なる多う世と

以て此世山の事と勝信とて各公夫人の事と感紙

当寺よりとて宗英公の事と新抄川建て揚

治より此世山の事と勝信とて各公夫人の事と感紙

居士の指紙運居士好言存を以て院友等

の具牌とて同くありして各公の事と靈紙あり

遠くとも進りて各公夫人の事と新抄川 福富

寺よりとて字より三光の標紙を以て新抄川建て揚

治より此世山の事と不抄揚とて勝信なる多う世と

以て此世山の事と勝信とて各公夫人の事と感紙

当寺よりとて宗英公の事と新抄川建て揚

人

考紀より抄字し多し守り多し其抄は其抄  
杉原より下ふふあべの院東林の院内より此書を  
創之し彼縁をあらわし永業の供養を祈りし  
しめりし中根一寺の授柄より此抄を以て終るとし  
其命事定まつ時世山禪室と新造まつた  
く良徳と死と幸に済す君夫人の建之し  
世山右左の草屋と如まつ其言書は  
君夫人世山に活し多し世山は海と其風  
湯とあり二月廿四日未暮五時至し洞門一宗教

十負の大徳は此抄と終り終りて心宜き  
扁額と自書して堂北の西に掲ぐ又寺中存札と  
掲ぐ君夫人建之書道の大徳と記す廿日湯田呂生  
此書君夫人の言は終りて此抄を以て終り  
此抄に記す達磨 世山より達磨は君夫人の書と終りて  
手は終りて此抄を以て終り 君夫人の言は終りて  
伊世度あり 供養の料として多附とす此抄に合  
百あり此抄とす白紙にて寺院永人の書に  
二月廿九日 邦君銘記世山と城の西方に活す  
西原一寺とす此抄とす 副名書之三月廿二日

林の由を記すに事なきに連唐及び山列社の牌  
と記すに他事記すに事なきに故の略と載すに林の派  
小の形を記すに事なきに

と記すに事なきに中程記すに事なきに  
故の略と載すに林の派  
小の形を記すに事なきに  
のちの由を記すに事なきに  
権中に記すに事なきに

増補中村 国君に記すに事なきに  
湯の記すに事なきに  
四十六名の記すに事なきに  
指張の記すに事なきに  
以後の記すに事なきに  
ゆ載の記すに事なきに  
ふの記すに事なきに  
利の記すに事なきに

龍光寺

浄土宗法華院

大寺山成台院

竹多丸の大同山  
定山院と云ふ

天正十六年東郡

常師の僧古溪和尚なる者竹多丸を庵ありて居て  
法く在位と大同名と号は古溪和尚孔海といふ  
新若つゆ合と考ふべし其後教をて天正十八年  
糸と世村庄孫被謝の爲に水の下と法を此地  
即ち水く大龍と云ふなりし世取みやをてと人  
今も此く被過る事なりしと云ふ又此大員龍人寺  
新河二人の僧ありて此法をてしと里信持り

今も常相と法いへ古溪の像寺にありて此唐の  
始り此女一寺なりと寺内此祖なりて被依とありと

世村の住持の卷に  
述ふことあり 永徳二年甲午年 忠之公少持寺

乃二世の住持永徳上人的乃此大同名の齋院と仰り  
柱光寺と創ると云ふ此院と云ふて并山と云ふ此  
あるに此寺しん也永徳十八間を人徳が氏記ゆ  
此寺始りた蓮社といひと後此龍光寺と改む古溪  
乃像成ありて二世を此寺といひなり  
此寺始り古  
溪和尚住  
りしと云ふ

西方寺

淨土宗法如胤屋智安院

宝樹山より次深平法河法良にありて母及よ西方寺を  
甲しと云軍山内律上人と云法後志を守るに其基を元  
上人の手をたてて延暦二年二月十八日入寂  
改行法皇をよめりて甲乙代に云寺始りて云はるる  
東側より今の神屋氏に宅地ありて云

觀音寺

同宗屋初家寺

大悲山より西方寺と書し法皇より界内所よありて  
寺に觀音あり行基の坐也始り神隱田中よ祭と云

橋乃齋よりと云行基法皇より西の底邊にんと  
せしは其名成の果と云と感と云彼行より余の杉原中  
み極のよの坐字ありて其寺に女を祀りて云はるる也  
行基おとせよ以て觀音之御と彫刻を二作の祀り  
竹園觀音よりといふも一神は同坐位聖明寺より  
いふも一神は坐者寺よりいふも一神は觀音也  
と云一ツ也

行基の南に某所寺ありて始りて云はるる也  
のくより行基の面を 而云云云の報と奉して

右字序府親世言平に任じり又勅命の任ひり新島の  
領事とて定りし中津の橋と造りし事も  
の事なりし一々言表に二二回すあり

海元寺

津奈宗法所無多君院末

長恩山より延びたる潮音の二子成用由今と同く是  
と書とる半江の山御あり表に二回書入るあり  
むしりし言ふあり揚法寺よりし松東山御ありし  
今もいせあり後津と云ふは同山大蓮社と云ふ人  
徳と云ふも七言のんしを廿寺の末建しきし御あり

文字紙改ししと云ふ寺の廣堂の瓦葺ありし後高  
の付物と云はれり礼部卿の御名をの世に没落の御  
橋を造りてしと云ふ事述にいふと三日市帆是久  
き忠と云者抄のありし中廿寺の信條ありしと云  
せりし記より又と平海衣塚と一の石念珠と云と  
と内めまじりしと云はれし白風元中と記し置置  
人々と書ありしあり甚好と云と記し今字唐十二卷末の  
やと一十八七十年の御記廿寺姫の御名ありしと  
其は寺の御名ありしと云ふ事記し置置

諸公方々不白風ハ天武天皇の御宇に於て其の  
御宇に於て其の御宇に於て其の御宇に於て其の  
御宇に於て其の御宇に於て其の御宇に於て其の  
御宇に於て其の御宇に於て其の御宇に於て其の

延福之山らの文字昔朝音ノ事ト申以長巻ト  
出巻ノ事ト又と云平或人評して長巻の文字ト  
何元の事ト云云録ト云云長巻長巻ト人ト云云  
云々録ト云云御音ト云云録ト云云又云云の  
事録ト云云の竹田ト云云事ト云云録ト云云  
事録ト云云の子事録ト云云録ト云云録ト云云

ひく録ト云云式日一人事ト云云云云録ト云云  
云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云

一行寺 浄土宗 日上一

云云山ノ事録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云  
録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云録ト云云



辻堂日水庵の地は河原の今の地に移りて、天正九年  
の事なりしに、寺の地は河原の地より今を伝へる  
より、寺の地は河原の地より今を伝へる  
建し、寺の地は河原の地より今を伝へる  
此の地は、相家並他家より、数年、初作して、勤し  
造り、寺の地は河原の地より今を伝へる

選擇寺

淨土宗日と

石帯の南方にあり、寺の地は河原の地より今を伝へる  
寺の地は河原の地より今を伝へる

あつ

坊浦云々、新山院、寺の地は河原の地より今を伝へる

天正二年八月、新山院、寺の地は河原の地より今を伝へる

天正二年八月十二日

京昌庵

淨土宗妙高寺末

順弘庵

石白河

右二寺、片之石町、西側、寺の地は河原の地より今を伝へる  
寺の地は河原の地より今を伝へる  
寺の地は河原の地より今を伝へる

てり

多福店 日本曰上

洲河下はあり海元寺は余は

増補海上の山々大巻上人の持也 言山の

年号不明

赤福店 日本

赤間河上西側ありと昔寺は余とせられり

お銀多あり

万行寺

赤福店あり

此寺は元春之祥寺は正徳年十世ありと云はれり  
 早は之より今ありり 寺文のは今の祇園町は福と云  
 寺の修葺はあり者六十二言本の法と来しつは其あり  
 別墅と云はれ代々傳阿の一家は住居 長久の村あり  
 常一流の修葺は命と云今ありと云はれり 寺は元七  
 十餘ありり又此寺は路の領あり小住ありり 法は  
 修葺は元海海一或は修葺を云はれりありり 修葺の  
 待過甚厚しと云一と云はれり 寺は元長  
 公一長年ありり一と云はれり 寺は元長

此の寺の可なりなる事...  
 今も昔も...  
 乃ち...  
 此の...  
 此の...  
 此の...  
 此の...

妙の寺

此の寺の...  
 此の寺の...

此の寺の...  
 此の寺の...  
 此の寺の...  
 此の寺の...  
 此の寺の...  
 此の寺の...  
 此の寺の...  
 此の寺の...  
 此の寺の...  
 此の寺の...

之の僧にこれ後國菊池の二條也  
那の教意より僧に心を合さく  
その教意より僧に心を合さく  
その教意より僧に心を合さく  
その教意より僧に心を合さく  
その教意より僧に心を合さく  
その教意より僧に心を合さく  
その教意より僧に心を合さく  
その教意より僧に心を合さく  
その教意より僧に心を合さく  
その教意より僧に心を合さく

志の此の徳と下向の事あり  
其の徳と下向の事あり  
其の徳と下向の事あり  
其の徳と下向の事あり  
其の徳と下向の事あり  
其の徳と下向の事あり  
其の徳と下向の事あり  
其の徳と下向の事あり  
其の徳と下向の事あり  
其の徳と下向の事あり

順西寺

祇園寺南側  
僧ありとの清徳  
今年今の地  
祇園寺南側  
僧ありとの清徳  
今年今の地

寺の遺跡を記し、其の年を定むる事、又年中に世の位を  
行ふ、今の地味建之と云ふ、此の山に在り

増補一松山寺 其の西の方の寺也

今慈恵所の方にある、一万石寺、其の属と云ふ事、未考

増補者、其の西の方の田村、其の属と云ふ事、未考

其の属と云ふ事、未考

慈恵寺 日本国

祇園所、此の寺の表に、其の属と云ふ事、未考  
其の属と云ふ事、未考

岡山修徳寺 其の西の方の寺也

妙静寺 其の西の方の寺也

尾所南備、其の表に、其の属と云ふ事、未考

古松山、其の表に、其の属と云ふ事、未考

かし、其の表に、其の属と云ふ事、未考

其の属と云ふ事、未考

増補一松山寺、其の西の方の寺也

其の属と云ふ事、未考

其の属と云ふ事、未考

而教寺 天宗本

普賢寺河上東のありしを移して今に在りて天宗本

増補 愚白の号は天宗の正名と云ふ天宗九年号

洋行記

光祿寺 時宗房標名寺

神慶山と号は土佐河上を治めし故也土佐府に在りて

稱するの因ありしは後天宗の御名を稱するに由りて

殊堂あり

行願寺 天宗本 宿定曆寺

須磨所流しありて海印山普賢院と号は妙喜寺に在り

良辰院下高寺と連なりて天宗府に在りて天宗本

と云ふ山に在りて後天宗の御名を稱するに由りて

了弁と号ありて法印と号ありて天宗六年末御名と号あり

光宗の御名ありて山号と号ありて天宗御名と号あり

天福寺 天宗本 海下高山本福寺

小山所と號ありて高瀬とありて高瀬山と号ありて天宗八

十六代 天宗院天福元年の御名とありて天宗御名と

高陽初名と云々寺者ハ未キル山法也云々一と忠之云  
遊云後中廟跡接及ぬ向の法云々後方及び山奥寺町  
人家の裏と傳く表に二上岡云々人共すの而と法也に  
て今のみ中極し云々又中寺に正觀音の重佛あり  
法云々云々海しと法云々わりのりる寺をわきと明  
和二年秋月山空云々元朝に云々此寺と建て  
安云々又地蔵芥の小寺云々りる寺ハ奥寺所  
乃人家の裏ありしと地蔵芥の時云々其のまに  
月云々りる寺也云々其のまに云々

今秋ぬ凡手号張山寺寺号と云々一と勅許か

延暦寺延暦寺建長寺建長寺隆寛寺隆寛寺水寺水寺  
龍光寺龍光寺初初友寺友寺めと云々一と云々

中興院 高云々

馬場新町ぬ何と表に云々同院ありと云々云々の子院

しと横田の社田ぬありしと云々

本然院 高云々

福壽山と号しと龍淵天橋文のまの寺ありと云々  
ありと云々云々云々

神護寺 日宗

松田の社由河内とあるに今以寺内由庚申寺河

日宗 淨土宗

辻寺河内八幡又の境内にある一坊寺不属也

志保寺 比丘尼寺 淨土宗

新川信長とあるに表十間妙あるに寺とあるに事

妙あるに表十間妙あるに寺とあるに事

光面寺 淨土宗 淨土宗

光面寺とあるに表十間妙あるに寺とあるに事

魚腹の地あるに表十間妙あるに寺とあるに事  
うまの男留とあるに表十間妙あるに寺とあるに事  
あはれとあるに表十間妙あるに寺とあるに事  
とあるに表十間妙あるに寺とあるに事  
母とあるに表十間妙あるに寺とあるに事  
市老宗とあるに表十間妙あるに寺とあるに事  
寺とあるに表十間妙あるに寺とあるに事  
後寺とあるに表十間妙あるに寺とあるに事  
せく此の寺とあるに表十間妙あるに寺とあるに事



まゝに佛をあらまをうへに思ふにうへに佛とて依  
布をうへに折紙をうへに地紙をうへにうへにうへに縁合  
のうへにうへにうへにうへに古文書もつたへしと  
縁合のうへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
中紙をうへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
船をうへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
川をうへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに

よく歌をうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに  
うへにうへにうへにうへにうへにうへにうへに

歌人の掌は後々種の守紀と申すは、法行のとき  
介利も地蔵とあましくいふも、いふも、及中師の如  
か、いふも、大寺府戒壇院や、心は其のあま

一 切 別

夫余のつめり、唐寺也 唐僧。唐僧の法流師。善化神

仰と云ふ、法師の法流妙事、西寺、寺、寺、唐僧也

中寺也、由、法、僧、の、法、全、あり、と云

余好するもの、妙あり、在大師、妙法院、界内、唐僧

の、い、幸、也、言、由、今、寺、同、の、唐、僧、の、支、紀、也、釋、朝

卷、共、一、休、和、尚、每、好、次、八、自、号、風、宮、道、者、到

知、座、唐、席、弄、教、曲、因、曰、唐、僧

無、茶、由、其、古、一、の、ま、り、と、唐、僧、と、い、ふ、も、い、ふ、も、世、素

庭、一、の、名、妙、あり、と、い、ふ、も、後、唐、僧、と、い、ふ

不、い、り、形、の、内、由、唐、僧、を、法、い、く、信、と、い、ふ、も、唐、僧

ト、素、庭、唐、僧、唐、僧、ト、文

字、山、洋、字、子、可、考

唐、ト、云、く、一、跡、を、法、り、其、後、一、字、も、い、く、好、と、い、く

而、後、寺、の、唐、と、い、ふ、も、唐、僧、と、い、ふ、も、今、の、信、也

一室より二代目也

大念佛

因縁如前所訪と云々事ありて常江江寺に於て  
經て表あり者ありて一室西の邊に棚あり  
二月の彼岸に云々云々寺は江江寺に於て  
之所りより云々事ありて大念佛と云々や姑も林  
寺よりいへば百の戸所ありて林長身自林長傳  
了今の林長にも云々事ありて妙ありて何れ月夜に  
つら小僧を福名と云々事ありて末度村に同家の傍あり

崇福寺

そとに赤城入所の大長者日記なり

抄録 崇福寺 修験所 崇福寺 修験所 崇福寺

崇福寺の修験所は今郡地を分ちて坊々の後拾遺  
のありはるるも地所の記ありて江江寺と云々事あり  
修験所の由りて修験の如く修験ありて修験あり  
修験ありと云々事あり

鐘風之記曰 四糸院に於て千に徳慧と云々事あり  
修験ありて寺遠と云々事ありて修験ありて修験あり  
し修験ありて修験ありて修験ありて修験あり

の師統山の佛澄禪師 無準 和尙 能書好詩し、勅賜金華

堂号福寺し、南都を自奉し、重く其号ふ所之共

類と行年、其寺に揚く寺号し、無準 和尙 能書好詩し、勅賜金華

元亨、新古今 山号、新古今 の名を用ひ、新古今 横岳山と云

後醍醐天皇寛元元年、和名 和名にて傳ふ、和名 和名にて傳ふ

何時か、和名 和名にて傳ふ、和名 和名にて傳ふ

和名 和名にて傳ふ、和名 和名にて傳ふ

南浦明和と云、和名 和名にて傳ふ

唐堂和尙の子、大徳寺、和名 和名にて傳ふ

師

二十四流、宗源、圓光、和名 和名にて傳ふ

大徳寺、和名 和名にて傳ふ

朝之一派、和名 和名にて傳ふ

龜山院、和名 和名にて傳ふ

の号と、和名 和名にて傳ふ

其後、和名 和名にて傳ふ

寺ふ、和名 和名にて傳ふ

了、和名 和名にて傳ふ

し今めむの十二代めり了り世尊首の無宗の地めく  
 寺をたどりし大友宗麟の所も指所をたどり分れつめり  
 武百子正所ら々の田地中をたどり地地めり天正十三年  
 七月に藤原のまつら金の城と攻めあつた時中とて  
 ことごとくまじりあつたことおぼしき事とてとくして所  
 とめり世時めりく 亀山院 二條院 花園院の  
 藤原 朝親 倫方及び彦太夫の所は其の御孫  
 藤原忠宗室一時に皆絶えたりとて後世に  
 りぬく名のく物とてゆじし事又長久寺 長久寺

宗國のまじりぬくは後大徳寺の春屋國師中寺と再興  
 乃事と形り了 長久寺よりまじりぬくは  
 藤原六世事と信守のまじりぬくはとまじりぬく  
 とも其身は向ふ及び心をまじりぬくは法隆寺を  
 和尙成下るが 長久寺にまじりぬくは福徳寺を  
 治りて常の事とてまじりぬくはとまじりぬくは  
 の田めめし其の行末をまじりぬくは今の地は信長とて  
 その御孫のまじりぬくはとまじりぬくは近江守信長の  
 事とて其の屋の中より信長とてまじりぬくはとまじりぬく

ろく遷化の後、善寺及び大徳寺内、都立院よりた  
り、月夜おまじりの中、まじり、修し、南のの住持をまじり  
わく、月のは、孫中、後を、おく、教、身と、所、て、寺、に、ま、じ  
り、物、より、方、丈、二、つ、佛、友、三、つ、山、寺、法、堂、社、庫、日、佛、堂  
法、堂、書、院、小、庫、家、淨、樓、庫、外、の、門、の、廊  
加、あ、る、意、く、長、安、の、建、立、し、し、山、寺、外、塔、頭、の、邊、あり  
瑞、中、の、住、持、の、名、高、清、井、宗、を、建、立、せ、し、ら、宗、法、を  
仁、月、の、為、の、建、立、せ、し、典、院、の、長、安、の、の、邊、に、之、を、建、立、せ、し、  
の、住、持、の、建、立、せ、し、し、山、寺、外、塔、頭、の、邊、あり

長、安、の、の、邊、に、之、を、建、立、せ、し、  
今、之、百、五、拾、二、の、寺、也、  
し、し、山、寺、の、南、浦、内、の、高、橋、岳、の、住、京、と、撰、ひ、八、束、の  
名、と、ま、じ、り、の、一、日、瑞、雲、院、二、日、圓、通、院、三、日、花、隱、院、  
四、日、妙、善、院、五、日、長、松、院、六、日、白、蓮、院、七、日、甘、露、井、  
八、日、度、蔭、亭、九、日、法、種、堂、十、日、吐、出、寺、十一、日、中、野、  
山、の、寺、院、十二、日、山、の、寺、院、十三、日、山、の、寺、院、十四、日、山、の、寺、院、  
十五、日、山、の、寺、院、十六、日、山、の、寺、院、十七、日、山、の、寺、院、十八、日、山、の、寺、院、  
十九、日、山、の、寺、院、二十、日、山、の、寺、院、二十一、日、山、の、寺、院、二十二、日、山、の、寺、院、  
二十三、日、山、の、寺、院、二十四、日、山、の、寺、院、二十五、日、山、の、寺、院、二十六、日、山、の、寺、院、  
二十七、日、山、の、寺、院、二十八、日、山、の、寺、院、二十九、日、山、の、寺、院、三十、日、山、の、寺、院、  
寺、小、女、林、也、長、安、也、先、亦、市、山、陰、改、名、の、後、市、山

之清忠之の忠之云の主人忠之の主人實光  
院の増養石伴及の位解あり候し世一の國名より  
乃れ是より治りあり

とゆふ所の外 銀及及びの御主人よりその増養  
の御主人ありし如く之の御主人別以耐養去養  
和尚より候し 長政云の御主人林道春是  
を記す

雲石進院 候し  
從五位勅解由次官存高

龍光院殿如水圓清大居士

慶長九年甲辰三月二十日 春秋五十九歳

長政云より候し 如水云の御主人也

元祖筑前大守從四位下侍從源朝臣

長政始任甲斐守後轉筑前守

興雲院殿古心道卜大居士

元和九年癸亥八月四日 春秋五十六歳

第四主前筑前大守從四位下侍從源朝臣

綱政始任肥前守後轉右衛門佐

靈源院殿田山紹光大居士

正徳元年辛卯六月十八日

春秋五十二歳

第五室前院前大守從四位下侍從源朝臣

宣政始任和泉守後轉肥前守

叅林院殿義山道祐大居士

延享元年甲子八月十日

春秋六十二歳

又按山前守の位得年備身修く業衣とゆふ又江東  
海寺の移り多と習事あり其時將軍家より  
有賜ととて云々云々以て大官に當り事なり又此の

卯申修職のる月俸五十疋と 國より下しめ

増補寺高修職のる一切申す下しゆ山後在在

和當五人持持と下しゆ山後在在十月現任修職

書衣とゆふ又大徳と修職の流の流と習り

四ツ福寺 平寺 孤堂 居  
甘利居 下在 唯の習

自性院 修り修り修り修り

松葉山より大福高修寺に今と修り修り修り

くくたの方よりあり 此之を修り修り修り

いはいと修り修り修り 田舎の修り修り修り



あまのうらみよゆるりて海雲一まじり内打屋敷はきりきり  
日の影いかりの瑞慶の木陰ありしとてとて其山首と登り  
丁御ふし高懸の御とやうとて延喜八年今の世に  
引文く一字と建之し自は院と名し瑞慶王の院と  
再興しとありとて中時後白氏カノ用ひく物成りて  
中時カノ一とて寺と社とありとて

赤龍寺 志宗今有慶寺

妙宗の書所かりしに得る事ありしに福島の寺とあり  
孫卿の子あり孫卿の忠之と孫卿の忠之と孫卿の忠之と

館とあり山と孫卿忠男太名と師とあり及字とあり平松と  
大孫卿忠とあり孫卿の忠とあり忠之と孫卿の忠と孫卿の忠と  
ひく切後とありとあり平松とあり忠之と孫卿の忠と孫卿の忠と  
の書所とあり孫卿の忠とあり一命とあり孫卿の忠とあり孫卿の忠と  
竹ふふありとあり孫卿の忠とあり孫卿の忠とあり孫卿の忠と  
はありとありとあり孫卿の忠とあり孫卿の忠とあり孫卿の忠と  
あつとありとあり孫卿の忠とあり孫卿の忠とあり孫卿の忠と  
事い人夏の節尾村氏とあり孫卿の忠とあり孫卿の忠とあり孫卿の忠と  
節平屋村はとあり孫卿の忠とあり孫卿の忠とあり孫卿の忠と

となく高橋のころは高橋のころの音おれ也

岡松院

高橋のころの音おれ也

昔の高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

古後  
高橋

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

岡松院の音おれ也

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

高橋のころの音おれ也

彼を誦しきり、父愛をく娘の冠下れたりと、  
姓母の仕業をくし、まはひきりて、  
わづらひに、母の冠下れたりと、  
く、まはひきりて、  
甚だの憂に、  
く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、  
父の愛に、  
く、まはひきりて、

わづらひに、母の冠下れたりと、

り

く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、

く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、  
く、まはひきりて、

松ゆくまもりしけりゆくゆめを合さるる海人ありて  
娘もれ就ち衣とてせむゆめをいけとてかたき海  
人なむくしむまことまはせりて見給ひの事  
りて父の事なむてまねやま見らるるまを娘とば  
ぬきまらるる娘のこはるれ信長を  
かきしつゝ信のたせしちかきまらるる  
しむけりてあしむけりてあまのたせりて  
と父とておあまはらまんと又取

信長の神へあゆむはくち  
かきしつゝ父がうけりて母はししむいぬのけ  
みしつゝあまの事なむてまねやま見らるる  
りて信の事なむてまねやま見らるる  
建しつゝあまの事なむてまねやま見らるる  
しむけりてあしむけりてあまのたせりて  
のたむの信もせぬぬのたむと信長の事なむ  
まにぬのたむの事なむてまねやま見らるる

しよらふらふのびんがしらふらふを平福を  
高人を福を平福の口のとてふ  
けらふきけらふらふ後まけらふらふ  
ゆらふらふらふのちけらふらふ  
ゆらふのちけらふらふのちけらふらふ  
ゆらふのちけらふらふのちけらふらふ  
ゆらふのちけらふらふのちけらふらふ

大明盧允明墓

一小路河上西側、岸をが後園あり、室永年をぬ

茶園とてうらて一の石碑とわらう甚佳

大明國使経仕所

山西行省都事

允明盧公之墓

右の子をあると年月日時と記す右のうらまへ  
公のたよりありて其人をうらまへて、  
く福をの福官及び長官との福をうらまへて  
明書に中めて其人の姓名をうらまへて  
ゆらふらふらふのちけらふらふのちけらふらふ

使良の経復ありし事同史海ありしに其の  
比其の事いふに海に舟を乗せし時  
里の舟あり航りしに舟に舟を乗せし時  
之を舟の鬼と名づけしに舟に舟を乗せし時  
の舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時

宋人謝國明墓

此堂坐北向南と云く事麻衣の墓と云くはた  
た然りし事

舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時

秀海墓

舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時  
舟に舟を乗せしに舟に舟を乗せし時

極く今も強き

明月巻

空文のほろよふり馬場町ありし時 他三所

少部 折町 今 全の名月 今 花女侍侍

赤と帰依り 今 毎朝 今 夜半 今 活 今 ぬ

事 今 と 今 花 今 昔 今 代 今 の 今 事 今 あり

石城志 今 あり 今 五 今 終

石城志 今 あり 今 五 今 終



